様式第３号

令和４年度　学校経営報告書(自己評価)

学校番号	26	学校名	静岡県立富士東高等学校	校長名	清水　俊幸

取組目標		成果目標	達成状況（丸数字は学年）	評価	成果と課題
ア	**自身のキャリアデザイン及び社会的な課題への関心・意欲をもち、進んで課題解決に取り組む生徒を育てる。**	県大STAFFによる支援／６回以上	①３回②７回	A	・静岡県立大学との連携・協働の数値的成果は出ているが、より探究学習の充実に資するよう、内容の改善を図る必要がある。 ・生徒は外部との接点をもつことについて自覚的になることができた。より一層質を向上させたい。 ・３年間の取組計画は柔軟かつ弾力的に改善を加えていき、本校ならではの探究を模索し続ける。
		学生サポート満足度／80%以上	①88.5%②82.1%	A	
		外部連携できた生徒／100%	①100%②100%	A	
		外部セミナー参加／60%以上	①100%②100%	A	
		３年間の取組計画（ロードマップ）の作成・実施・改善	令和３年度末に作成した３年間の取組計画（ロードマップ）をベースとしつつも、１年生は探究の手法を徹底的に体得するプログラムに修正した。	A	
イ	**各教科における授業研究（指導と評価の一体的な充実）を通して、質の高い思考力と主体性を育む。**	授業で自らの「思考力」「主体性」「コミュニケーション能力」を使う場面があると答える生徒／70%以上	思①95.6%②95.9%③91.6% 主①90.7%②86.7%③83.8% コ①92.2%②90.7%③93.2%	A	・生徒・教員ともに育成を目指す資質・能力を意識しながら授業に臨むことができた。 ・主体的な学習意欲の喚起については、教務課、進路課、及び学年部で最重要課題として検討する。 ・重点としている「問い」の設定と「成果」の想定を意識できた。指導と評価の一体化の実現につながるよう、より一層の浸透と定着を図りたい。 ・ＩＣＴ活用については途上にある。３学年で個人用の端末を使用する次年度は、深い学びにつながる有効な活用を目指して実践を積み重ねる。
		自ら進んで授業に取り組む生徒／50%	①33.5%②25.3%③31.1%	C	
		単元ごとに「問い」の設定と「成果」の想定をした教員／いずれも80%以上	「問い」の設定　83.3% 「成果」の想定　88.9%	A	
		単元ごとに「指導と評価の計画」の見通しをもって授業を実施した教員／100%	91.7%	B	
		Google Classroomやロイロノートを授業で活用した教員／70%以上	36.1%	D	
		一人一台タブレットを活用した答える生徒／80%以上（１年生）	①87.5%	A	
ウ	自らの生き方を主体的に選択する高い志をもち、その実現に向けて粘り強く切磋琢磨する生徒を育てる。	スタディーサポート結果分析会／全学年で実施	４月当初に全学年行うことで学年の強み・弱みを共有した。	B	・学年のスタート時や模試結果の情報共有を効果的に行うことができた。今後も継続することで指導力向上につなげていく。 ・家庭学習の中心は「学校から課された宿題」が66.8%と最も多く、家庭学習の質・量ともに課題が多い。自ら主体的に学ぶ姿勢の育成に向けて策を講じる必要がある。 ・しののめplusは今後も継続し、年間を通じて充実させたい。 ・キャリア教育の重要性に鑑み、自己の在り方生き方を考える取組を一層充実させたい。進路選択につながるような人選と日程調整が必要である。
		外部模試等の結果分析共有／年間３回以上	年間３回を達成予定（１月分は今後実施）	A	
		「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒／１年50%　２年50%　３年80%	①23.1%②24.7%③76.3%	D	
		１週間の家庭学習時間の平均／１年14h　２年16h　３年32h	平日　①1.1h②1.5h③2.9h 休日　①1.7h②2.4h③4.6h １週間　①8.7h②12.2h③23.8h	C	
		自習環境の整備	しののめplusを設置した。 東雲学習コーナーを拡充した。	B	
		外部検定に挑戦する生徒／20%以上	①10.8%②29.1%③51.5%	B	
		マーク駅伝参加率／90%以上（３年生）	往路93%、復路85%の参加率であった（コロナ対応を含む）。	A	
		職業講話が将来設計展望につながったと答える生徒／30%以上	「有意義だった」と答えた生徒 ①90.8%②85.4%	A	
		卒業生の話が進路選択の役に立ったと答える生徒／30%以上	「有意義だった」と答えた生徒 ①93.4%②90.6%	A	

様式第３号

取組目標		成果目標	達成状況（丸数字は学年）	評価	成果と課題
エ	学習・特別活動・部活動の両立を通して、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育成し、人格の完成を目指す。	挨拶運動／月１回	月１回、風紀委員・代議員の活動として実施した。	B	・基本的生活習慣は確立しているが、自ら元気よく挨拶する生徒が少ない。 ・東雲祭は今年度初めて人数制限による外部公開を行った（チケット制）。引き続きコロナ禍における公開の在り方を検討したい。 ・部活動は活性化が図られている。ガイドライン遵守の徹底が課題である。 ・読書週間の充実に向け、テーマ設定、生徒への周知の時期等を工夫する。 ・安心安全アンケート実施後の対応を明確にし、アンケートの意味を再確認する必要がある。 ・健康診断有所見の通知だけでなく、健康に対する意識の向上や興味・関心をもてる情報を発信していく必要がある。 ・１年生は５・６・10月に交通違反が多く見られた。次年度は５・10月を重点的な指導月として交通違反を減らしていく。
		挨拶や服装を徹底していると答える生徒／80%以上	①98.1%②99.0%③99.5%	A	
		遅刻・欠席の割合／前年度比マイナス５%以下	欠席41%増（出席停止を含めた場合は６%増）…新型コロナウイルス感染症の影響による。 遅刻は10%減	B	
		東雲祭、球技大会の満足度／80%以上	東雲祭　91.7% 球技大会　94.7%	A	
		生徒の部活動満足度／各学期80%以上	１学期　90.6% ２学期　88.6%	A	
		社会貢献活動／各部活動年１回以上	実施率　30.0%…コロナ対応のため活動が制限された。	C	
		読書週間にテーマに即した本を選び視野を広げたり知識を得たりできた生徒／90%以上	①59.1%②60.9%③73.5%	C	
		安心安全な学校づくりアンケート／学期１回実施	学期１回実施した。アンケート結果は概ね良好であった。	B	
		信頼する教員がいると感じる生徒／80%以上	①83.5%②80.6%③82.8%	A	
		健康診断有所見者の治療完了率／100%	継続的に働き掛けたが治療完了率は１割に満たなかった。	D	
		月１回の情報提供による交通違反意識の注意喚起	街頭指導を年７回行いマナー遵守を呼び掛けたが、違反の減少には至らなかった。	C	
		防災講座をリニューアルして実施	タブレット端末アプリ「静岡県防災学習」を用いた参加体験型の研修に変更した。	B	
オ	**新しい時代の学びを支える教職員の資質・能力の向上を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する。**	12月までにスクール・ポリシーを策定	12月までに案を作成→生徒・保護者から意見聴取→２月策定	B	・全教職員の参画によりポリシーを策定できた。 ・しののめだよりは、共通認識をもって授業改善を進めるための有益な情報源の役割を担っている。 ・一人一公開授業と相互参観を継続し、組織的な授業研究を進める。 ・研修の効果を日常の授業改善に持続的に反映させることは課題である。 ・一人一台端末活用については一層研修を進める。 ・情報共有のクラウド活用は今後の課題である。
		しののめだより発行／年間10回以上	１月末までに20回発行し、校内外に広く公開した。	A	
		公開授業／各教員１回以上 相互参観／各教員２回以上	少人数ユニット制を導入し、一人一公開授業と相互参観を実施した。	B	
		学習評価に係る全体研修／年間５回	12月までに４回の研修を実施した。２月にも実施する。	B	
		ＩＣＴ活用を促す研修機会／年間２回	ＩＣＴ活用授業力向上研修を核として、２回の研修を実施した。	B	
		県外視察、研究会参加／６人以上	県外視察　３府県５校へ５人 研究会参加　６教科各１回以上	A	
		クラウドを活用した、進路情報や国の最新動向の情報共有	２，３年担任会を活用し情報提供した。	B	
カ	校内外の環境整備に努めるとともに、学校の取組を社会（保護者・地域）に開く。	不祥事根絶セルフチェック／遵守率80%以上	６月実施　94.8% 12月実施　95.1%	A	・当事者意識のもてる不祥事根絶研修を継続する。 ・生徒自らが計画を立てて実施できるよう定期的に専門委員会を開催する。 ・清掃・安全点検計画を周知し、全教職員で実践する。 ・分校設置工事や体育館の照明工事により、学校生活に支障が生じた。教育環境の美化、施設・設備の維持管理に一層努める。 ・校務のデジタル化を一層進め、効率化を図る。 ・引き続き広報活動を充実させ、学校の魅力発信に努める。
		専門委員による環境衛生活動及び点検／週１回	活動時間を確保できず不定期の実施となった。	C	
		清掃・安全点検／月１回	定期的に校内巡視を行い、安全点検を実施した。	B	
		学習環境が良好だと思う生徒の割合／75%以上	①80.0%②68.0%③76.4%	C	
		学習支援クラウドサービス活用による欠席連絡と健康観察の電子化	掲示板（生徒／教職員）、連絡・相談（生徒／保護者）、健康観察、出席管理、アンケート等に活用	A	
		学校案内のリニューアル	全面改訂し、富士・富士宮市内の中学３年生全員に配布した。	A	
		ホームページ、公式ＳＮＳによる発信／日平均１回以上	(R5.3.23現在) ホームページ更新214回 Instagram投稿数 690(累積907) Twitter投稿数　737(累積826)	A	

様式第５号

令和４年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	26	学 校 名	富士東高等学校	記載者	伊藤　直美

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標		成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	**キャリアデザイン及び課題解決に取組む生徒を育てる。** **自身の社会へ意欲的に課題を関心をもち、課題をもって主体的に進んで解決する力を育てる。**	県大 STAFF による支援／６回以上	A	A	・探究学習の成果が表れているので、今後に繋げてほしい。 ・外部連携・セミナー等、社会に必須なコミュニケーション能力を十分に高められた経験ができた。 ・社会への課題解決に目を向ける人材育成として、とても重要な取組である。今後もこの取組を続け、外に発信していくことで、富士東高校の特徴をより多くの方に知っていただくことを期待する。
		学生サポート満足度／80%以上	A	A	
		外部連携できた生徒／100%	A	A	
		外部セミナー参加／60%以上	A	A	
		３年間の取組計画（ロードマップ）の作成・実施・改善	A	A	
イ	**各教科における授業研究（指導と評価の一体的な充実）を通して、高い思考力と主体性を育む。**	授業で自らの「思考力」「主体性」「コミュニケーション能力」を使う場面があると答える生徒／70%以上	A	A	・授業で自らの「思考力」「主体性」「コミュニケーション能力」を使う場面があると答える生徒／70%以上に対して、自ら進んで授業に取り組む生徒が30%前後というのが不可解。 ・グラデュエーション・ポリシーにある「思考力」「主体性」「コニュニケーション能力」への取組は達成されていると感じる一方で、「自ら進んで学ぶ力を育む教育」への取組はまだ改善の余地がある。また、急速に進む世の中の動きに合わせて、生徒だけではなく教員も新たな技術を活用していく必要性を感じる。 ・授業でのＩＣＴ活用が推進されているが、生徒、教職員共にスキルに差があるのではないか。タブレットが苦手な生徒への対応も課題の一つである。 ・Google Classroom やタブレット等、これからの授業では100%活用するべきである。
		自ら進んで授業に取り組む生徒／50%	C	C	
		単元ごとに「問い」の設定と「成果」の想定をした教員／いずれも80%以上	A	A	
		単元ごとに「指導と評価の計画」の見通しをもって授業を実施した教員／100%	B	B	
		Google Classroom やロイロノートを授業で活用した教員／70%以上	D	C	
		一人一台タブレットを活用した答える生徒／80%以上（１年生）	A	A	
ウ	自らの生き方を主体的に選択する高い志をもち、その実現に向けて粘り強く切磋琢磨する生徒を育てる。	スタディーサポート結果分析会／全学年で実施	B	B	・「家庭学習の中心」は、「学校から課された宿題」との回答が66.8%なので、ある程度評価していいのではないか。低学年は家で勉強をする習慣が重要であるので、宿題（課題）の質と量が課題である。先生方の負担になるが、毎日の積み重ねが主体的な学習につながると思う。 ・１週間の家庭学習時間が少ない。 ・家庭での学習が、自分で必要と判断した学習ではない点は、学校からの課題が多いのか、家庭学習の時間が少ないのか、その他問題点があるのかを検討する必要がある。 ・外部検定に挑戦する生徒の目標が20%以上というのは少ないのではないか。英検は多くの中高校生が受験しているし、受験しやすい検定である。多くの生徒が挑戦した方がいい。
		外部模試等の結果分析共有／年間３回以上	A	A	
		「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒／１年50%　２年50%　３年80%	D	C	
		１週間の家庭学習時間の平均／１年14h　２年16h　３年32h	C	C	
		自習環境の整備	B	B	
		外部検定に挑戦する生徒／20%以上	B	B	
		マーク駅伝参加率／90%以上（３年生）	A	A	
		職業講話が将来設計展望につながったと答える生徒／30%以上	A	A	
		卒業生の話が進路選択の役に立ったと答える生徒／30%以上	A	A	

様式第５号

エ	学習・特別活動・部活動の両立を通して、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育成し、人格の完成を目指す。	挨拶運動／月１回	B	B	・基本的な生活習慣が身に付いていることは非常に良い。 ・部活動の満足度も高く、信頼する教員がいると回答した生徒の割合が高いことは、学校生活が充実していることの表れである。スクールカウンセラーなどの、メンタルの相談ができる担当者がいるとさらによい。 ・マナー良く、事故がないように、自転車通学する生徒の交通指導を積極的に行うことは良いことである。 ・交通違反意識の注意喚起は月１回以上は行うべきである。 ・読書週間でなくても読書の習慣は身に付けたい。 ・文武両道の達成度が高い。バランスの取れた人格形成に適している。 ・挨拶・服装への徹底、東雲祭への取組、部活動への取組など、学習面以外へも満足に取り組んでいる学生が多く、バランスが取れた生きる力の育成ができているように感じる。 ・富士東高校の特徴である、文武両道をこれからも意識して、取り組んでほしい。
		挨拶や服装を徹底していると答える生徒／80%以上	A	B	
		遅刻・欠席の割合／前年度比マイナス５%以下	B	B	
		東雲祭、球技大会の満足度／80%以上	A	A	
		生徒の部活動満足度／各学期80%以上	A	A	
		社会貢献活動／各部活動年１回以上	C	C	
		読書週間にテーマに即した本を選び視野を広げたり知識を得たりできた生徒／90%以上	C	C	
		安心安全な学校づくりアンケート／学期１回実施	B	B	
		信頼する教員がいると感じる生徒／80%以上	A	B	
		健康診断有所見者の治療完了率／100%	D	D	
		月１回の情報提供による交通違反意識の注意喚起	C	C	
		防災講座をリニューアルして実施	B	B	
オ	**新しい時代の学びを支える教職員の資質・能力の向上を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する。**	12月までにスクール・ポリシーを策定	B	B	・しののめだよりはとてもよい。ＨＰに公開しているので、学外への情報発信は富士東高校を身近に感じることができる。 ・教職員の資質・能力の向上は重要な課題。公開授業や相互参観を行うだけでなく、斬新なアイデアを期待している。 ・新しい時代に対応するためには教員への資質・能力の向上はとても重要。より高いレベルに持っていくために成果目標の見直しも検討してほしい。 ・３つのポリシーは未来の教育活動の大きな指針となる。大いに期待している。 ・ＩＣＴ活用を促すためには年２回の研修だけでは不十分。全教員が最低限のスキルを共有して積極的なＩＣＴ活用ができるような環境作りと常時のサポート体制が必要である。教員の意欲が問われる。
		しののめだより発行／年間10回以上	A	A	
		公開授業／各教員１回以上 相互参観／各教員２回以上	B	B	
		学習評価に係る全体研修／年間５回	B	B	
		ＩＣＴ活用を促す研修機会／年間２回	B	B	
		県外視察、研究会参加／６人以上	A	A	
		クラウドを活用した、進路情報や国の最新動向の情報共有	B	B	
カ	校内外の環境整備に努めるとともに、学校の取組を社会（保護者・地域）に開く。	不祥事根絶セルフチェック／遵守率80%以上	A	A	・様々な場面でＩＣＴの活用が今後活発になるが、デジタル化によるミスも発生しやすいので、情報は共有して複数のチェックを行うことが必要。 ・学習環境が良好だと思う生徒の割合75%は少ない。環境整備に力をいれるべき。 ・日々更新される情報発信はとても重要である。充実している。 ・ＨＰ・公式ＳＮＳの発信は富士東高校をもっと知ってもらうための一番のツール。とてもよいと思う。 ・よい取組を実施し、富士東高校が変わっているように感じる。外部に周知されるには時間がかかるので、引き続き情報発信を続けてほしい。
		専門委員による環境衛生活動及び点検／週１回	C	C	
		清掃・安全点検／月１回	B	B	
		学習環境が良好だと思う生徒の割合／75%以上	C	C	
		学習支援クラウドサービス活用による欠席連絡と健康観察の電子化	A	A	
		学校案内のリニューアル	A	A	
		ホームページ、公式ＳＮＳによる発信／日平均１回以上	A	A	